

# 【週刊タバコの正体】

Vol.35 第14話~第17話

2016/12 和歌山工業高校 奥田恭久

## ■Vol. 35

### (No. 489) 第14話 禁煙条例と心筋梗塞

ー公共施設での禁煙は心筋梗塞の発症を抑制する...

前回、『喫煙は、あなたにとって心筋しんきん梗塞こうそくの危険性を高めます。』という警告がタバコのパッケージに掲載されている訳を知ってもしらいましたね。今回はその証拠のような事例を紹介しします。

今から14前、アメリカのモンタナ州ヘレナ市という人口約6万人の町で“心筋梗塞”の患者が減少したことがありました。下の色付きグラフがヘレナ市における心筋梗塞の入院患者を、白いグラフはヘレナ市周辺の入院患者を示しています。

### (No. 490) 第15話 閉塞性動脈硬化症

ーバージャー病の患者は一人もいて難病にも指定...

タバコを吸い続けると動脈硬化が進行する危険性があり、心臓の血管に動脈硬化がおきると心筋しんきん梗塞こうそくを発症し、命にかかわる事態になる事を知ってもらいましたね。じつは、当然のことながら心臓以外の血管が動脈硬化をおこす可能性もあります。そこで、今回は手や足の動脈硬化による病気を紹介します。

手足の血管が動脈硬化をおこすと血液が行き渡らなくなります。すると、しびれや冷たさを感じたり、歩くとき痛みが出たりするそうです。さらに進行すると安静時にも痛みだし、ついには皮膚が壊死する場合もあるのです。この病気を「閉塞性動脈硬化症」と呼ばれ高齢者に多く発症し、下図のように症状が悪化していき写真のような状態になる人もいます。

### (No. 491) 第16話 脳卒中の危険性

ー脳卒中は後遺症が残る確率が高い...

タバコを吸い続けることによる動脈硬化は、色々な病気につながる事を知ってもらいましたが、まだもうひとつ深刻な病気があります。それは「脳のう卒中そっちゅう」と呼ばれる病気で、下図に示す脳血管が詰まる「脳のう梗塞こうそく」、脳血管が破れる「脳出血」と「くも膜下出血」を総称した呼び名です。

脳卒中を発症すると脳のどこかがダメージを受けます、例えば大脳がやられると、体の運動麻痺や感覚障害、ろれつが回らない、言葉がでないなどの言語障害がでます。脳幹や小脳に障害がでるとモノが二つに見えたり、ふらつくなどの症状がでるそうです。もちろん最悪の場合は死亡するケースもあります。下の円グラフはその割合を示しています。死亡者と寝たきりなどの後遺症が残る人を合わせると発症した人の半数以上になるのです。

### (No. 492) 第17話 禁煙の相談

ー家族で禁煙の話をしてもらえたらいいな...

タバコを吸い続けると様々な病気をひきおこします。なかでも動脈硬化に関係する病気(心筋梗塞、狭心症、脳梗塞、くも膜下出血、脳出血、バージャー病など)を連続して紹介してきました。どれも深刻な病気でしたが、皆さんの印象に残ったでしょうか。



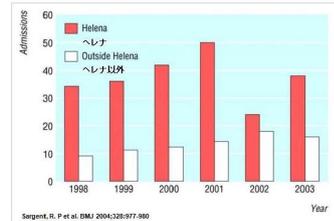
serial number 489

第14話

## 週刊 タバコの正体

前回、『喫煙は、あなたにとって心筋梗塞。危険性。高。』という警告がタバコのパッケージに掲載されているのを知ってました。今回はその証拠のような事例を紹介しします。

今から14前、アメリカのモンタナ州ヘレナ市という人口約6万人の町で“心筋梗塞”の患者が減少したことがありました。下の色付きグラフがヘレナ市における心筋梗塞の入院患者を、白いグラフはヘレナ市周辺の入院患者を示しています。



白いグラフは毎年少し増加し、大きな変化はない。色付きグラフは2002年に急増して、そのあおりを受けて、この年ヘレナ市では職場と公共の場所での禁煙条例が施行された。公共の場所での煙草を吸うことは、心筋梗塞の患者を増やした。条例が実施された後、この年6月から12月までの半年間だけだった。だから、翌年(2003年)には、心筋梗塞の患者が増えていった。

さらに、ブルックリン州で2009年8月から施行された禁煙条例は、禁煙条例によって心筋梗塞に死亡者と入院患者が増えたと報告された。サンクトロ総合大学医学部心臓研究所の調査によると、条例施行後17か月間で死亡者は12%、入院患者は5%減少した事が明らかになった。

このように公共の場所での喫煙禁止は、心筋梗塞の減少と、現象を明らかにさせている。これは、公共の場所での煙草を吸うことは、健康被害を少なくできる事を証明している。そして、このことから、喫煙を吸う人への健康被害を、事理を説明して欲しいと望む。



産業デザイン科 奥田 恭久



serial number 490

第15話

## 週刊 タバコの正体

タバコを吸い続けると動脈硬化が進行する危険性があり、心臓の血管に動脈硬化がおきると心筋梗塞を発症し、命にかかわる事態になる事を知ってもらいましたね。じつは、当然のことながら心臓以外の血管が動脈硬化をおこす可能性もあります。そこで、今回は手や足の動脈硬化による病気を紹介します。

手足の血管が動脈硬化をおこすと血液が行き渡らなくなります。すると、しびれや冷たさを感じたり、歩くとき痛みが出たりするそうです。さらに進行すると安静時にも痛みだし、ついには皮膚が壊死する場合もあるのです。この病気を「閉塞性動脈硬化症」と呼ばれ高齢者に多く発症し、下図のように症状が悪化していき写真のような状態になる人もいます。



また、同じような症状の「閉塞性血栓血管炎」(バージャー病)と呼ばれる病気もあり、20~40歳を中心に多く発症しているそうです。国内の患者数は約一万人と推計されていて特定疾患に指定されている難病のひとつです。

どちらの病気も発症には喫煙が深く関係していると言われています。実際、患者のほとんどが喫煙者だそうです。そして、その治療の基本は“禁煙”で、タバコを吸い続けているとどんな治療も無効だと解説されています。

タバコを吸い続けると手足にこんな症状が現れるなんて想像できないでしょう。でも、タバコのせいで血管が詰まってしまう事を知っていれば理解できますよね。



産業デザイン科 奥田 恭久

毎週火曜日発行



URL: [http://www.jascs.jp/truth\\_of\\_tobacco/truth\\_of\\_tobacco\\_index.html](http://www.jascs.jp/truth_of_tobacco/truth_of_tobacco_index.html)

※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のHPでご覧下さい。  
 ※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。  
 ※HPへのアクセスには右のQRコードが利用できます。

